

がんばってくださいね!
「は～いっ!!」

議 会 だ じ ゅ

ひさめがわ

3月定例会

平成27年度予算が決定…2～3	
条例改正等……………4～5	
村の考えを問う(一般質問)…6～11	
子ども模擬議会開催……………12～13	
議案調査……………14	
建設工事調査特別委員会・ 臨時議会第2回……………15	
ふるさと鮫川への想い……………16	

米価下落対策事業など

32億8000万円です

前年度比
4.6%の増

3月定例会は、3月9日から13日までの5日間の会期で開かれた。今定例会では、平成27年度各会計9件の当初予算案をはじめ、26年度補正予算案等7件、条例の制定・一部改正が24件、公の施設の指定管理者の指定について15件、辺地計画の策定9件、しらかわ地域定住自立圏の形成に関する協定の締結について1件、65議案と議員発議の意見書1件が審議され、全ての議案を原案のとおり可決した。

また、一般質問では、6名の議員が登壇し村政全般について質した。



大樂 勝弘村長

湯の田温泉活用事業

9会計の平成27年度予算総額は、47億1906万3千円、前年度比2億6982万7千円（6.1%）の増となっている。

「左表のとおり」

一般会計は、32億8000万円で、前年度比1億4400万円（4.6%）の増額予算となった。新たな事業としては、湯の田温泉活用事業などが主なもの。

主な事業と予算

- 湯の田温泉活用事業 3500万円
- 中山間地域等直接支払い制度事業 1億757万円
- 米価下落対策事業 268万3千円
- ふくしま森林再生事業 1億1873万9千円
- 道路新設改良事業 2億200万1千円
- 公営住宅整備事業 1億3945万5千円



温泉の利活用が期待される湯の田温泉（上ノ湯）



前田三郎村議会議長が 全国町村議会議長 会長賞を受賞

2月6日開催された全国町村議会議長会総会において、村議会議長として多年にわたり地域の振興発展に寄与貢献された功績が認められ受賞されました。

湯の田温泉活用事業

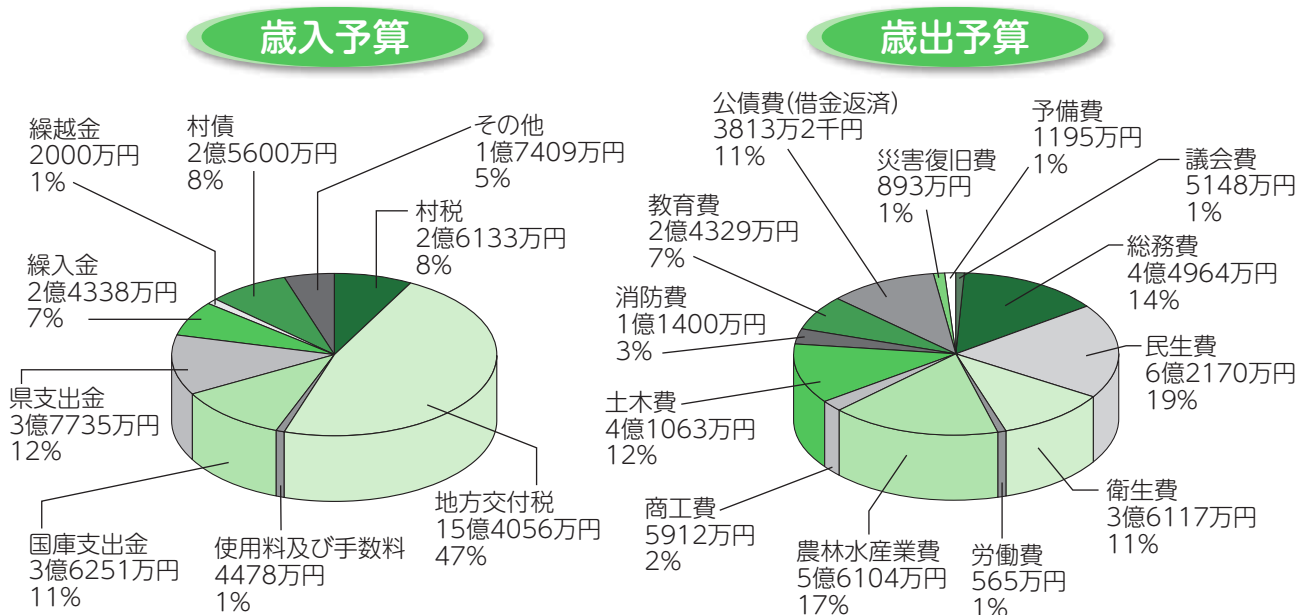
平成27年度予算が決定

一般会計は

■ 新年度の予算額

会 計 別			27年度予算額	26年度予算額	伸び率
一 般 会 計			32億8000万円	31億3600万円	4.6%
特 別 会 計	国保	事業勘定	5億1863万9千円	4億6124万1千円	12.4%
		直診勘定	6938万円	7069万4千円	△1.9%
	簡 易 水 道		1億9974万7千円	1億4900万円	34.1%
	村 営 バ ス		773万円	771万1千円	0.2%
	集 落 排 水		3149万3千円	3101万7千円	1.5%
	介 護 保 険		4億6013万6千円	4億3896万6千円	4.8%
	交 流 施 設		1370万円	1410万円	△2.8%
	学 校 給 食		1億309万2千円	1億418万9千円	△1.1%
	後 期 高 齢 者		3514万6千円	3631万8千円	△3.2%
	小 計		14億3906万3千円	13億1323万6千円	9.6%
合 計			47億1906万3千円	44億4923万6千円	6.1%

■ 一般会計予算の内訳



補正予算

一般会計 1億4966万3千円増額可決

主食用米価下落対策基金
総務費積立金

6337万8千円
7000万円

専決処分の承認平成

26年度一般会計の補正
予算額(第9号)は原案
のとおり、784万円を
可決し、歳入歳出とも37
億8641万8千円とし
た。

今回の補正予算額は、
村民保養施設さざり荘
の温泉確保のため、湯の
田温泉(元上ノ湯)から
送水するものである。

平成26年度一般会計
の補正予算額(第10号)
は原案のとおり、1億4
966万3千円を可決
し、歳入歳出とも39億3
608万1千円とした。
主食用米価下落対策
基金造成のため6337
万8千円繰出した。
公共土木施設災害復
旧工事801万5千円
追加。

農地等災害復旧工事
1150万円追加。

主な歳入補正

- ・地方交付税
- ・普通交付税
- 2億1824万3千円追加
- ・国庫支出金
- ・公共土木施設災害復
旧事業費
- 485万9千円追加
- ・県支出金
- ・主食用米価下落対策
基金積替事業費
- 6337万8千円追加
- ・東日本大震災復興基
金繰入金(復興支援交
付金分)クロスカント
リーを活用した観光
再生事業費
- 1266万1千円追加
- ・東日本大震災復興基
金繰入金(地域の元氣
臨時交付金分)
- 114万円追加
- ・村債
- ・辺地対策事業債
- 4000万円追加

主な歳出補正

- ・公共土木施設災害復旧債
- 230万円追加
- ・総務費積立金
- ・公有施設整備基金
- 3000万円追加
- ・財政調整基金
- 4000万円追加
- ・民生費繰出金
- ・国民健康保険特別会
計事業勘定
- 2800万1千円追加
- ・農林水産業費繰出金
- ・主食用米価下落対策
基金
- 6337万8千円追加
- ・災害復旧費
- ・公共土木施設災害復
旧工事
- 801万5千円追加
- ・農地等災害復旧工事
- 1150万円追加

会 計 別	補 正 額	補 正 後 の 予 算 額
一 般 会 計(第9号)	784万円増	37億8641万8千円

補正予算(5会計)

会 計 別			補 正 額	補正後の予算額
一 般 会 計（第10号）			1億4966万3千円増	39億3608万1千円
特 別 会 計	国 保	事 業 勘 定	1588万8千円増	5億176万2千円
		直 診 勘 定	890万7千円減	7199万5千円
	村 営 バ ス		723万8千円減	3274万3千円
	介 護 保 険		67万1千円増	4億5515万1千円
	後期高齢者医療		1万1千円増	3582万9千円
	合 計			1億5008万8千円増

条例の一部改正など可決

- ▼ 鮫川村主食用米価下落対策基金条例
- ▼ 教育長の勤務時間、休日、休暇等及び職務専念義務の特例に関する条例
- ▼ 鮫川村いじめ防止対策委員会条例
- ▼ 鮫川村保育料条例
- ▼ 鮫川村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例
- ▼ 鮫川村国民健康保険診療所医師住宅設置条例
- ▼ 鮫川村介護保険法に基づく指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に係る基準に関する条例
- ▼ 鮫川村地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に係る人員等の基準に関する条例
- ▼ 鮫川村移住定住促進住宅の設置及び管理に関する条例
- ▼ 鮫川村新規就農者支援住宅設置条例

- ▼ 鮫川村議会委員会条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村指定管理者による公の施設の管理に関する条例の一部を改正する
- ▼ 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- ▼ 村長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
- ▼ 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村奨学基金設置条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村奨学基金貸与条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村放課後児童健全育成事業費用の徴収に関する条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村介護保険条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村介護保険法に基づく指定地域密着型介護老人福祉施設の指定に係る入所定員等に関する条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村介護保険法に基づく指定地域密着型介護老人福祉施設の指定に係る入所定員等に関する条例の一部を改正する

- ▼ 設備及び運営に係る基準に関する条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村介護保険法に基づく指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に係る基準に関する条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村鹿角平観光牧場設置条例の一部を改正する条例
- ▼ 鮫川村道路占用料徴収条例の一部を改正する条例

その他

- ▼ しらかわ地域定住自立圏の形成に関する協定の締結について
- ▼ 公の施設の指定管理者の指定について
- (鮫川村食と農の学習施設、鮫川村農産物加工・直売所手・まめ・館)
- (鮫川村鹿角平観光牧場)
- (鮫川村特産品加工施設)
- (鮫川村農産物保管調整施設)
- (鮫川村新ステーション)
- (鮫川村農産物備蓄倉庫)
- (鮫川村民運動場)
- (鮫川村青少年広場)
- (富田村民体育館)
- (西山村民体育館)
- (鮫川村農業者トレーニングセンター)
- (鮫川村高齢者総合福祉センターひだまり荘)
- (鮫川村民保養施設、交流福祉センターさざり荘)
- (鮫川村高齢者向け優良賃貸住宅)
- 住民の福祉を増進する目的を持ってその利用に供するための施設である公の施設について、民間事業者等が有するノウハウを活用することにより、住民サービスの質の向上を図っていく。
- ▼ 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について
- (西野辺地)
- (西山辺地)
- (石井草辺地)
- (遠ヶ電辺地)
- (戸草辺地)
- (中沢辺地)
- (鎌木田辺地)
- (渡瀬辺地)
- (青生野辺地)

辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置のため。
き上げと早期発効を求める意見書の提出
◎ 意見書は、内閣総理大臣、厚生労働大臣、福島県労働局長に提出した。

議員発議・意見書の提出を可決

福島県最低賃金の引

平成27年度への繰越事業 (※繰越明許費)					
予算科目	事業名	金額	予算科目	事業名	金額
総務費	道少田住宅跡地整備事業	(千円) 11,012	農林水産業費	ふくしま森林再生事業	(千円) 95,781
総務費	携帯電話等エリア整備事業	63,181	農林水産業費	戸草地区県単治山施設補助事業	5,000
民生費	幼児送迎車両購入事業	3,583	災害復旧費	公共土木施設災害復旧事業	42,171
農林水産業費	菰地区農業基盤整備促進事業	26,978	災害復旧費	農地等災害復旧事業	11,500

※繰越明許費とは 予算成立後の事由によって、年度内に支出を終わらない見込みのあるものは、あらかじめ議会の議決を経ておけば翌年度に繰り越して使用することができる。

問

人財育成による村活性化対策を問う

答

村民の付託に応えられるよう 今後も指導していく

宗田 雅之 議員



質問

年々定住人口が減少し10年後の人口を3,200人と想定しているがこのような中、地域を活性化させ、後世に引き継ぐのは人であり、人の育成によりなしえるものと考えますが、今後の村職員、手まめ館従業員などの一層の研修による教育、新たな人財の登用の考えを伺う。

答弁(村長)

少子高齢化対策、雇用、若者の定住の問題など、それぞれの町村の課題になっているのが現状である。これらの問題解決に向け、取り組める職員の採用、育成は住民の福祉向上を目指す上で非常に重要な施策であると認識している。現在、採用後多くの研修を積んでいるところであるが、村民の付託に応え信頼されるよう、常に自己研さんに努めていくのは最も基本的な部分である。これらを含めて今後指導していく。

再質問

現在、総務省の施策、地方創生、活性化のために地域おこし協力隊が多く



生産者と一緒に給食交流

の自治体に登用され、本村でも2名の協力隊を採用しているが、どのような受け入れをして、どのような施策を講じさせているのか、また国では今後隊員の数を増やす方向であると聞くが、新たな採用の考えは。

答弁(村長)

現在、手まめ館で商品の販売、加工技術、レイアウト関係に協力をいただき6次産業の活性化、新商品の開発、販路の開発をお願いしている。27年度に新たに2名の採用を計画し国の補助金を使いながら新しい知識の導入、産業の振興策を考えていく。

問 給食費の無料化の考えは

答 事業推進委員会などを開き広く意見を聞く

質問

地場産業の減少に伴い他町村に通勤する方が多くなり、利便性を考え村を出て行く若者が多くなるのではと危惧する。村では通勤道路、住環境整備など進めている所であるが、財政的な支援としての子どもたちの給食費の無料化も考えるべきと思うが教育長に伺う。

答弁(教育長)

全国で約50の市町村で実施されているようである。今後は多くの市町村で少子化対策の一環として検討も必要になってくると思う。村としては現段階では保護者間の議論の広がりが必要であると考えている。実施に向けてはその過程が大事であると考え、事業推進委員会などを開き、将来を担う人材育成をどうするか、広く意見を聞きたい。

再質問

少子化で年々生徒の数が減少する中で村を維持していくのには、若者の定住化策は重要である。そのためには負担の軽減が大事

問 行政区長の報酬の見直しは

答 今後議論をいただき報酬の増額を内容については検討したい

であり今後検討を願いたい。また高齢化、単身化に伴い、高齢者の栄養のかたより、認知症などを防止するためには学校の空き教室を利用して給食の提供をしていく自治体があるが、村としてこのような考えは。

答弁(村長)

給食の無料化に関して現在、隣の石川町が計画しているところであるが村と

問 行政区長の報酬の見直しは

答 今後議論をいただき報酬の増額を内容については検討したい

質問

少子高齢化に伴い、地域の繋がりがますます大切になる中、多くの面で地域住民に携わる行政区長の負担、役割が年々多くなると思うが、これらの負担に見合った報酬のアップの考えは。

答弁(村長)

区長の報酬につきましては18年間値上げを据え置いているのが現状である。区長各位には納税の特

しては現在いろいろな面で子育て環境に応援していると思う。今後は周辺の町村の動向を見ながら対処しなければならぬ問題かと考えるが現状としては学力の向上の環境整備を考えたい。

また年寄りへの対応だが、現在多くの面で地域の人たちに協力をいただき孤獨な老人をなくす運動をしており、孤獨な高齢者は少ないのではと考える。今後皆さんに諮りながら、給食の体験食事などもおもしろいのではないかとと思う。

例を初めとする行政の全般にわたり、村と住民のパイプ役としてお骨折りをいただき、大いに感謝を申し上げている。他の非常勤特別職の報酬が減額されるとも増額されてない現状において、区長の報酬のみを増額することはその均衡を失うと判断しているところである。今後この質問に議論をいただき、報酬の増額を是とする内容であれば検討していきたい。



星
一
彌
議員

問 米の生産意欲向上の支援策を問う

答 基幹産業を守り、農村景観を維持する

質問

近年の豊作基調と消費量の減少によって米価は大幅に下落し、特に本県産米においては、風評被害もあり、村では昨年の生産農家に意欲を失わせないために、補助金を支給した。今年も生産量の減少を防ぐために優良種子の購入経費の助成を始め、農家の救済を積極的に進めるべきと考えるが。

答弁(村長)

近年にない大幅な米価



新規農業者に貸与される支援住宅

下落となった。本村では農業は基幹産業であり、危機感を持って米価下落対策をいち早く取り込み、村の景観維持と中山間地農業を守るために10aあたり1万5千円を交付した。また今年度に於いても稲作農家の救済として種子代金の3分の1の相当額「1キロあたり150円」の県補助金を交付し、本村に於いては種もみ購入補助10aあたり3.5kgを上限に1kgあたり200円の補助。対象種もみは、主食用米、飼料米、WCS

用米、米粉用米とし、村内の稲作農家を守り、景観維持と耕作放棄地をこれ以上拡大させないために取り組む考えだ。

再質問

今後は地域の農協との連携によって新しい農業を先取りする担い手育成が必要と考えるが。

答弁(村長)

米に変わる農業として施設園芸を考えているが、10人程の青年がいるかどうか課題である。また市民滞在型農園で村の景観を見て癒していただき、人との交流を図る。

再質問

村の有機農法も滞在型農園に利用していただきたい。協力隊、東京農大等との若い力を吸収し、村にキャンパスを作る考えはあるか。

答弁(村長)

東京農大は現場主義なので学校精神をぜひ生かしてもらい、村にキャンパスという願いであり、いろいろと取り組んでいる。

問 納税組合の見直しをすべきではないか

答 現状では難しいが、区長と相談の上対応を検討する

質問

日本各地で高齢化が進み、地域の活性化や経済への影響が懸念されている。本村にとっても例外ではなく、一人住まいの高齢者が多くなることも予想される。今後納税組合の見直しも困難な組合も見受けられる。今後納税完納継続と集落の美しい環境を守るため、道路愛護、河川清掃においても、組合の見直しが必要ではないか。

答弁(村長)

納税組合は57年継続完納や環境美化、集落機能の維持に重要な役割を果たしており、各行政区長を中心に更なる継続をお願いしている。

現状では高齢化等により共同作業が困難な事例もあり、一部免除する対応をしている集落もあるが、村内の納税組合の事情が異なっており、一概に見直しは難しい。維持困難な状況があれば、区長さんと相談し、対応を検討する。

再質問

今後10年間の見直しでも人口で3200名、高齢者は700名、高齢化率は43%と予想される。しかも女性だけの一人住まいが多くなり、河川、道路愛護でも機械に頼らなければならず、危険が伴うと思う。20、30年を見据えた場合、避けて通れない問題だ。

美しい環境を継続するには行政側の決断が必要と思うが。

答弁(村長)

納税組合の組織の見直しは、組合の事情が違っているので区長さんを通じて今後考えなければならぬ時期に来ているので今後の議題にしたい。

問

定住促進宅地分譲と産業の振興策を伺う

答

公営住宅や空き家、遊休地、耕作放棄地の状況を勘案しながら検討する

関根 政雄 議員



質問

村有地や利便性の高い民有地を有効活用し、若者の定住や入村者を視野に入れた、村独自の「鮫川流分譲地」を整備し、「産業の振興に繋がる条件付の新築支援策」を講じるべきと考えるが。

答弁(村長)

新年度は国の「ひとまち」創生総合戦略に基づき「地方総合戦略」を策定するが、定住促進策は戦略の柱である。「農地付き貸別荘」や都市住民の「週末農業」のための貸農園に、集落と農家民宿が連携し、移住・定住に繋げていくことも施策と考える。

再質問

本村は近隣町村へも通勤できる距離であり地価も安い。宅地造成には費用がかかるが、村内の建設業の施工や定住への一定の条件をつけて土地の無償提供してはどうか。

また空き家リフォームへの材料支給制度を導入し、若者の定住を促進してはどうか。

答弁(村長)

村の大工さんが村の木



定住分譲地住宅推進は人口減の優先施策

再質問

旧西野区民グラウンドの活用、子どもセンター周辺にも利便性の高い民

材を利用してモデルハウスを建築し、移住・定住者に有利な価格で販売する。また空き家のリフォームをオーダー方式で施工するための利用者や移住者を紹介するなど支援したい。

答弁(村長)

有地があるが将来的な「子育て支援」を含めた用地の活用を考えは。地元の皆さんの感覚で相応しい土地があつたなら提案いただきたい。

10年住んでもらうたなら、宅地の地代は免除するといった施策も検討し、新しい住民確保に向けて努力する。

問 道徳教育の教科化の対応と心の教育・総合学習の計画を伺う

答 講習会や研修会を開き、指導計画の作成、指導法、評価の方法を実施できるよう計画する

質問

文部科学省の有識者会議は、正式な教科となっていない道徳の時間を「特別な教科」に格上げするとした。この指針への対応と、心の教育・総合学習の計画を伺う。

答弁(教育長)

道徳教育推進教師が中

問 村民参加の村づくりをさらに推進すべき

答 各会議などにも女性と若者の登用をすすめる

質問

村づくりは人づくりと言われている。村の将来に危機感をいだき、夢と希望を共有し、「村や村民のために真剣に汗を流す村民」が増えない限り、村の存在はありえないと考える。村を維持するためには、村民が村づくりに参加しやすい環境が必要であり、「協働の村づくり」への所見を伺う。

答弁(村長)

少子高齢化、人口減少、就労人口減少が到来している事を前提として、若者の参画が必要である。第4次振興計画の策定を契機に「村づくり次世代委員会」の設置を検討する。



前田 武久 議員

問

大樂村政3期目にわたる政策実績の成果と今後の課題は何か

答

美しい農村環境が維持できたが、経済力の向上、子育て支援、学力の向上、教育環境や道路の整備も必要

質問

村長は清潔で公平・公正、住民の目線で村政を執行することを公約に掲げ、8月で任期を迎える。この3期目にわたる実績・成果、課題について伺う。

答弁(村長)

最初に行ったのが職員定数と給料の見直し、議員特別職報酬、補助金の削減等、大きな見直しと削減に協力をいただいた。一方で基幹産業である農業の振興により高齢者の生きがいづくり事業や「まめな暮らしで環境を活かした、安らぎとふれあいの村づくり」を始めた。

また目標の一つに「人の集まる村づくり」を掲げ、農産物直売所の開設、有機の里づくりで堆肥センターの開設にと展開した。残念なことはオーゼキ製作所と泰斗工業の撤退である。

再質問

大樂村政はかなりの事業をこなしているが、自己評価できるもの、自らの反省をふまえて残された課題はなにか。

答弁(村長)

気に入った事業は「さざり

り荘の建設」、米価下落対策の「10aあたり1万5千円の支援策」、富田寅卯平線の建設である。残念なのは企業の転出である。

再質問

さざり荘と屋内プールの運用の改善は未だに改善されていない。ひだまり荘の介護事業をみやぎ会

問 ヒューマン財団法人の対応を問う

答 2度目の説明会ができるようお願いしたい

質問

オーゼキ製作所社屋にヒューマン財団が全国から野良犬、野良猫の収容施設としての計画について全員協議会にて説明があった。また工場を村が買い受けて、経営が軌道に乗ってから買い受けたいとの説明を受けた。

ヒューマン財団を受け入れる事を前提に協議会を開催したのか。

答弁(村長)

野良犬、野良猫ではない。計画している施設は一時預かりや飼い主が高齢化や病気で飼育不能になった場合の保護、殺処分

に移管する約束不履行の件、手・まめ・館の振興公社化が進んでいないが。

答弁(村長)

この容易でない時の振興公社を立ち上げるのは難しい。事業が黒字経営になった時に立ち上げた。

される犬猫の保護施設である。

社会貢献を行う財団は寄付で運営し経営もバックアップする用意があるとの説明があった。決して受け入れを前提にして協議会を開催したのではない。

再質問

この事業はヒューマン財団とオーゼキさんで契約すべきであり、村は係わる必要がない。我々議員が反対してもやるといふことなのか。

答弁(村長)

村が入らないとオーゼ

キさんも不安であると思う。不安もあるが、ヒューマン財団に貸すことは乗り気である。

再質問

村長が施設を求めたいのなら自分の財源で求めたらいかがか。

答弁(村長)

福島県が被災している。またこんな村だからこそ手伝いできる事業ではないかと思う。無理に将来を卑下した事業ではない。



再利用が期待されるオーゼキ製作所社屋

問 村長の4期目の進退を問う

答 4月の議員選挙が終えたなら意思表示する

質問

村長の任期も残すところ5ヶ月となった。当然進退については決意されていると思うが、4期目に挑戦されるのか。されないとすれば後継者を考えているのか。

答弁(村長)

後継者指名をする気は全くない。私の後継者は村民が選ぶべきである。できれば村のために30代、40代の夢を持った青年の力をいただきたい。

問

6次産業化にむけてた取り組みを伺う

答

地産地消の拡大、使用品戦略、人脈等による販売活動と地域興し協力隊の指導を進める

前田 雅秀 議員



期待される良質堆肥での有機農業の確立

質問

本村はこれまで豊かな土づくりセンター及び手・まめ・館を核として、有機型農業や生産、加工、販売システム一体化の推進に努めてきた。農産物を活用し、新たな産業の創出と農業所得の向上・雇用の増大といった経済の活性化を図り、一定の実績を上げていると評価している。

交流会等々が、※達成度評価CまたはEとなつていいることは残念である。新年度においてこれらの事業に積極的に取り組む必要があると考えるが、事業内容を伺う。

答弁(村長)

村の大きなテーマは「まめで達者な村づくり」、有機農業による循環農業である。これらを実現化するには、地産地消、農業の6次産業化、ブランドの推進など、継続発展させる取り組みが必要であ

る。また技術指導、経営支援活動の推進を図り、本村に適した主要作物の導入や特別栽培認証の普及拡大と消費者へのPR活動を進めて、生産性と所得向上につながる仕組みづくりを検討している。

達成度基準表 ※1

達成度	評価内容	達成状況
A	計画に掲げた施策を達成した。 (ほぼ100%実施した)	ほぼ100%
B	計画に掲げた施策を概ね達成した。 (75%程度実施した)	75%程度
C	現在、施策の達成に向けて動いている。 (半分程度実施した)	50%程度
D	現在、施策の達成に向けて動き始めている。 (施策に着手し、動き始めることはできた)	25%程度
E	現在、ほとんど手をつけていない。 (施策に着手することができなかった)	0%

再質問

手・まめ・館の振興公社設立について「生産性があったなら振興公社を設立する」と答弁しているが、生産性をどのようにしたら上がると思っているのか。

答弁(村長)

手・まめ・館の振興公社化については、直売所が独立できて、村側からの繰り出し金が無くて自立できるかできないかというところである。現在堆肥センターの堆肥も回転し

ミングをし、売り方もあるのではないかな。

答弁(村長)

「ふくいぶき」はイソブラボンが通常の1.5倍多く含まれているが、原種が福島ではないそうである。その変わりの品種を見つけているところだ。農家の皆さんの所得収入につながるような品種を開発しながら取り組んでいく。

再質問

村は大豆「ふくいぶき」の耕作を奨励しているが、栽培しにくい豆であるというところがある。イソブラボンが高い品種だが、それを売りにし、納豆とか豆腐とかそれなりにネー

ている。東電の賠償金もある企業を通じて500万円入っている。畜産農家の振興、農家への堆肥の供給等循環型農業を目指しながら、村からお手伝いしながら、農業の生産性を高める。



山形 郁夫 議員

問

地域おこし協力隊の活動状況と公務について伺う

答

特産品開発に関する活動、手・まめ・館の加工品製造販売業務活動に従事



地域活性化の活動が期待される隊員

質問

地域おこし協力隊2人の報酬として398万4千円を予算化しているが現在までの活動状況と公務について伺う。

答弁(村長)

地域おこし協力隊は全国の318の自治体で973人の隊員が活動している。岡部隊員は直売所で販売や店舗管理を中心に活動し、高野隊員は手・まめ・館の加工品の製造を中心として活動をしている。

再質問

今後とも募集するが、空き家対策と農家民宿を核としたグリーンツーリズム、交流事業が主な業務だ。

答弁(村長)

役場は企画調整課が窓口であり、岡部隊員は旧鈴野屋さん宅、高野隊員は西野の定住促進住宅を拠点としているのか、どこを拠点(室)にしているのか。

再質問

拠点としている。

地域の人達との関わり合い、村の職員とのコミュニケーションが希薄ではないのか。地域おこし協力隊の姿が全村の中で見受けられない。活性化戦略室のようなオープン施設を設置して、村民の意見を聞いてはどうか。

答弁(村長)

隊員の一年目は村の産品を確認、二年目は加工、三年目は売り出してもらっている。さらに地域の皆さんや職員とコミュニケーションの中から新しい賞品の開発も生まれているのではないかと期待している。

※【地域おこし協力隊】

人口減少や高齢化の進む地方自治体が都市の住民を受け入れ、地域おこし活動や農林水産業に従事し、地域活性化につなげようとする制度。任期は3年で県内では18市町村に44人が活動している。

問

国道289号線の進捗状況と整備完了の見通しは

答

県南建設事務所を所管し事業を進めている

質問

国道289号線の渡瀬バイパスとしての現在の進捗状況と整備、完了の見通しと沿線の活性化について伺う。

答弁(村長)

鮫川総合開発の跡地であると思うが、地権者がいわき市の人になった。県の代執行までは至っていない。

再質問

地目は何か。

答弁(村長)

雑地と思う。

再質問

雑地とすれば、除染作業の一部に組み入れることができなかったのか。

答弁(村長)

除染は生活している人の環境を優先する。鮫川総合開発の跡地は住居には該当しないので除染は無理である。

再質問

きれいな村づくりを提唱する観点から、不法投棄されているものの浄化をこの機会にやる考えはあるか。

村づくりへの意見提案が続出

開催されました。鮫川小、青生野小の8名の子ども議員が真剣に
づくりに役立つ鋭い提案に答弁者と傍聴人も感心いたしました。



我妻 成貴 議長

除雪・木の伐採について

質問

通学路やスクールバス
路線には、日陰の雪が解け
ずに車の運転にこわい思
いをする人がいる。雪が
降った時の早めの除雪や、
日陰をなくすための木の
伐採をお願いしたい。

答弁

村長

今後要望があった日陰
箇所については調査・伐採
をする。また職員が巡回
し、融雪剤の散布をするな
ど、安全確保に努める。

再質問

舟木 花 議員

伐採した木は何に利用
するのか。

答弁

村長

木の太さによって建築資
材や「さざり荘」の燃料に利
用している。

再質問

中川西 凌汰 議員

木を伐採する税金はど
うなのか。



北條 佑奈 議員

答弁

村長

国からいただくお金で負
担している。

子どもの利用可能な施 設の設置について

質問

青生野地区は若者や子
どもが減っている。その理
由として子どもが利用で
きる施設が少なく、不便
であるからだ。
子ども向けの施設とし
て図書館がほしいが村の
考えはどうか。

答弁

教育長

利用する人の数や利便
性を考えると、学校の図書
館を利用していただきた
い。

子ども向けの絵本や皆
さんが要望する本があれ
ば、村や県の図書館の本を
読むことができる。今後は
地域の皆さんの思いを調
べ、役に立ちたいと考えて
いる。



棚井 末有 議員

街路灯の整備について

質問

帰宅時、道が暗く歩き
にくいと感じる。高齢者
にとっても、足元が危険で
事故が起こりやすい。ま
た街灯があるにもかかわらず、電気のつかないところも
見られ、人があまり通
らないと感じるところに
街灯がついている。
村民の税金で設置されて
いる街灯であるので、設
置場所や電球の交換など
検討をお願いしたい。

答弁

村長

平成26年度からは経費
の節減を図るために、水
銀灯型からLED型に切
りかえており、27年度に完
了する。防犯灯の設置につ
いてもLED化と整備を
図る。

再質問

我妻 佑哉 議員

LED電気は何年で設
置が終わるのか。



須藤 大斗 議員

答弁

村長

127基の街路灯は26
年度で完了する。防犯灯
も設置を進める。

再質問

中川西 未来 議員

人の通らないところは
撤去するのか。

答弁

村長

撤去はしない。住民の皆
さんが必要ないというなら
検討する。



岡部 颯馬 議員

子どもが遊べる施設に ついて

質問

休日によくトレーニング
センターを利用して
いるが、スポーツ少年団や
中学校の部活動が使用し
ていると利用できない。
子どもたちだけで遊ぶこ
とのできる施設を整備し
ていただきたい。



加藤 三桃子 先生

昨年引き続き、6
年生担任として、子ど
も議会に携わることが
できました。子どもな
がら、自分たちが住む
鮫川村を少しでも良く
しよう、住みやすい村
にしようという真剣に考
える姿に、嬉しくも、頼
もしく感じました。
「読みたい本をすぐに
手にする事ができるよ
うに、書店をつくってほ
しい。」安全に遊ぶこ
とのできる施設をつく
ってほしい。」と子ども
の目線だからこそ、考
えることのできる意見。
子ども以上に考えさせ
られる機会となりました。
10年後、20年後、子ど
もたちが立派な大人と
なったとき、子ども議
会で提案した意見を思い
出し、更に住みよい鮫
川村へと変えてくれる
ことを願っています。



星 朋香 副議長

子ども達は村の宝物!



村議会の主催により、昨年に引き続き第2回の子ども模擬議会が質問し大樂村長と奥貫教育長が答弁をいたしました。今後の村



答弁 教育長

トレーニングセンターの3つあるコートの一面は空いているので、他の利用者と協力して利用を図ることも必要である。

今後運動施設や健康づくりについて広く意見を求めトレセンの「子どもの遊び専用の日」について検討したい。

再質問 坂本 花梨 議員

子どもの遊び場をつくる場所はあるのか。

答弁 教育長

どのようなものを作るか広く意見を聞きたい。

再質問 藤元 舞 議員

今まで使えなくなった遊び場はどうなったのか。

答弁 教育長

旧西野小学校、西山小学校、渡瀬小学校などと思われるが、運動ならばトレセンを利用してもらいたい。



坂本 愛花 議員

村内に充実した新しい店の設置について

質問

学校の近くに「すまいる」ができたが、文房具などがもっとあればいいと思う。また各方面の空き地をつかい「すまいる」のような店を建ててはどうか。

答弁 村長

各方面に店を建てる事は難しい。ほしいものがある場合にはお店に相談してはいかがか。

再質問 藤田 冬馬 議員

「すまいる」に本コーナーを設置していただきたい。

答弁 村長

「すまいる」の店長さんに聞いてみる。本を置いた場合には買っていたきたい。

再質問 鈴木 千尋 議員

「すまいる」は休日に営業してもらいたい。

答弁 村長

毎月第1木曜日が定休日。祝日は営業している。

再質問 佐川 一樹 議員

「すまいる」は本や文房具を置いたら狭くならないのか。

答弁 村長

レイアウトを工夫するように指導する。



芳賀 綾乃 議員

村内の書店設置について

質問

図書館があっても読みたい本が置いていない。マンガがなく難しい文字ばかりで、読みにくいとの声も聞く。村内に書店の設置を検討願いたい。

答弁 村長

村には書店はないが、図書館と学校図書館がある。読みたい本がある場合には遠慮しないで相談していただきたい。



薄葉 大生 議員

村の人口減少について

質問

僕の学年にも将来は村外に出て働きたいと願う人がたくさんいる。これでは故郷である鯉川村の存在がなくなってしまう。これは村内で安心して働く場所が少ないのが原因だ。人口減少を止めるための考えを聞きたい。

答弁 村長

人口が減っても勉強や体験をし、能力の高い大人になり、村を支えていけば大丈夫である。皆さんが立派な大人になるように教育に力をいれていく。



高橋 諒久 先生

「来年はこんな事を質問してみたい。これは、青生野小学校の5年生が学校に帰る途中のバスで話していた言葉です。青生野小学校は6年生が1名だけだったのでも、5年生も参加させていただきました。村長さんや教育長さんが子どもたちの質問一つ一つに答えてくださったので、青生野小学校の子どもたちもこんな事もできたかった」と議会に対して興味・感心を高めることができました。私が今回嬉しかったことはもう一つあります。それは「みんなで村のことについて話し合ったことがとても楽しかった」と子どもたちが思ったことです。自分の住んでいる村や地区について、真剣に考え、来年もやりたいと考える子ども達の姿に感激しました。このような良い機会をありがとうございました。

議案調査

議会開会中に各常任委員会は、議案の内容について調査を行い、詳細について各課長などから聞き取り検討調査した。



産業厚生 常任委員会

調査内容 新年度予算

- ゆづきの里づくり事業 ● 農業災害対策事業 ● 中山間地域直接支払制度事業 ● 直売所・農産加工施設管理業務 ● 大豆振興対策事業 ● 未来の担い手育成事業 ● 多面的機能支払交付金事業 ● 館山公園整備事業 ● ふくしま森林再生事業 ● 首都圏物産販売 ● 湯の田温泉活用 ● 除染対策事業 ● 水田作付整備事業 ● 農村整備事業 ● 道路環境美化事業 ● 村道維持管理事業 ● 定住促進住宅管理事業 ● 公営住宅整備事業 ● 戸籍住民基本台帳事務費 ● 一般高齢者支援事業 ● 高齢者支援事業 ● 児童手当給付事業 ● 保育園運営事業 ● こどもセンター事業 ● 予防接種事業 ● 診療所運営事業 ● 住民健康診査事業



総務文教 常任委員会

調査内容 新年度予算

- 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 ● 固定資産台帳整備 ● 選挙運動用通達はがき公営費 ● 消防施設整備工事 ● 湯の田地区整備業務 ● 施設整備工事 ● 観光施設管理工事 ● 施設整備工事 ● 地域おこし協力隊 ● クロスカンートリー・オーブン・セレーニートレーニングセンター ● 村民運動場 ● 青少年広場 ● 村民体育館 ● 各施設の指定管理業務 ● 体育施設整備工事 ● 条例 ● 教育長の勤務時間休日休暇等及び職務専念義務の特例に関する条例 ● 地域おこし協力隊に社会保険・税番号制度に伴うシステム開発 ● フラットフォーム設計構築費 ● しらかわ地域定住自立圏の形成に関する協定 ● 振興計画印刷 ● 口陰林伐採業務 ● 国道県道維持管理業務 ● 橋梁点検業務 ● 道路舗装補修工事 ● 住宅整備工事 ● 営農再開支援業務 ● 落葉収集作業協力報償 ● 農村地域振興再生基金 ● 総合整備実施計画 ● ふくしま森林再生業務 ● 林業振興施設工事 ● 産業むすびプロジェクト推進業務 ● 森林整備業務 ● 里山の恵み体験ツアー業務 ● 大豆乳酪園ツアーボランティア商品開発業務 ● 東京農大実習田借地料

代表質疑(要旨)

平成27年度 一般会計予算について 総務文教常任委員会



早川 正博 議員

次の3点について伺う。

問①湯の田地区整備業務500万円及び整備工事3000万円について今後の活用と整備の進め方と温泉利活用による新しい農業振興策についてと湯の田温泉周辺と保養施設「さざり荘」との連携をどのように計画しているのか伺う。

答(教育長)

指定管理業務を移行する目的は、管理経費の削減。

答(村長)

各施設の管理運営に要する維持管理経費、事業実施に要する運営経費であり、この積算については、前年度の決算状況を勘案して計上した。

問③買い物弱者支援事業費900万円について地域住民の利便性向上

に貢献し中央の活性化につなげているが、経営上大変苦しい状況であり「すまいる」の運営の改善と行政と商工会が協議しなければならぬと思うが村長の考えを伺う。

平成27年度 一般会計予算について 産業厚生常任委員会



岡部 明 議員

次の2点について伺う。

問①直売所・堆肥センター指定管理業務1500万円の内訳、使い道についてと堆肥の需用供給のバランスについて伺う。

答(村長)

指定管理料の内訳は、農産物加工・直売所「手まめ・館」に1200万円、豊かな土づくりセンター「ゆづきの郷土」に300万円として合わせ

答(村長) 今後高齢化の進展による「すまいる」の必要性は益々高まり今から準備しておくことが大切であり、行政としても経営改善の支援を可能な限り引き続き行う考えである。

て1500万円を支出するものである。優良堆肥「ゆづきくん」のRRR、堆肥利用の農産物ブランド化を図るなど、利用販売を広める必要がある。

問②水稻種子購入費268万3千円の主食用米価下落対策について、今後どのように考えているのか伺う。

答(村長)

米価下落対策を目的にした「主食用米価下落対策基金条例」の設置及び基金積立を活用し米価下落の対応をとっていく。

建設工事調査特別委員会報告 その4

建設工事調査特別委員会が 終了、報告書を議長に提出

建設工事調査特別委員会は、平成25年3月臨時議会において工事の設計内容、執行状況を精査して適性な監視をするために設立されました。11回にわたる委員会が終了し報告書を前田議長に提出し、更に大樂村長に報告しました。

建設工事調査特別委員会の報告書を村長に提出



医師住宅の現況を調査(宿ノ入地内)



第9回建設工事調査特別委員会(平成26年7月24日)

第2回臨時議会

財産管理費積立金(財政調整基金) 1億4988万円追加
地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業費委託料 3620万円追加
一般会計 7373万5千円追加可決

第2回臨時議会は、3月26日開催され、平成26年度補正予算6件、第4次鮫川村振興計画「基本構想」の策定について1件、区長及び副区長の選任につき同意を求める1件の8議案が提案され、全ての議案が原案のとおり全会一致で可決した。

補正予算 一般会計(第11号)

平成26年度一般会計補正予算は、歳入、歳出とも7373万5千円を増額し、予算総額を40億981万6千円とした。

主な歳入補正

- 村税
- 村民税(個人) 1300万円追加
- 固定資産税 897万円追加
- 地方交付税
- 特別交付税 7425万1千円追加

主な歳出補正

- 財産管理費積立金(財政調整基金) 1億4988万円追加
- 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業費委託料 3620万円追加
- 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業費備品購入費 200万円追加
- 第4次鮫川村振興計画「基本構想」の策定について鮫川村における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための「基本構想」は原案のとおり可決する。
- 人事案件・同意可決
- 区長及び副区長の選任に同意を求めること
- 区長
- 赤坂西野区 白坂勝徳
- 西山区 本郷弘義
- 赤坂中野区 金澤一四
- 赤坂東野石井草区 森洋
- 富田区 青戸禎美

会計別	補正額	補正後の予算額
一般会計	7373万5千円増	40億981万6千円
特別会計		
国保(事業勘定)	12万2千円増	5億188万4千円
簡易水道	149万9千円減	1億5662万1千円
集落排水	136万9千円減	3156万3千円
介護保険	38万6千円減	4億5476万5千円
学校給食	233万7千円減	1億494万円
合計	546万9千円減	52億5958万9千円

- 副区長
- 赤坂西野区 佐藤文夫
- 西山区 関根啓太郎
- 渡瀬区 芳賀精治
- 青生野区 岡部照夫

平成27年度への繰越事業 (繰越明許費) ◆3月臨時議会案から掲載

予算科目	事業名	金額
総務費	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業(鮫川村総合戦略策定事業ほか)	40,700(千円)
商工費	鹿角平観光牧場コテージ外構等整備事業	2,964(千円)

- 赤坂中野区 鈴木香
- 赤坂東野石井草区 本郷秀季
- 富田区 松本一治
- 渡瀬区 遠藤雅人
- 青生野区 白坂伸治

ふるさと 鮫川への 想い シリーズ¹⁶

故郷を想う

二瓶 キクエ

故郷を離れて50数年、今になつて子供の頃を思い出しています。

真冬の寒い日に、田んぼでタツペすべりをした事や、バケツと鍬をもち、猫を連れて清水の出る所に行き、ドジョウを取ったことなど、今では考えられない様な事をして冬の生活を楽しんで来たように思います。

凍てつく様な冬の寒さから解放され、山々の木々が芽吹き、辺り一面がやわらかな萌黄色に包まれた野山を散策するのが好

きでした。

この頃になると、様々な山菜を求めて急斜面を歩きまわり、よく滑り落ちて、すり傷やきり傷を作っていたものです。戦後の物不足の時代でもあり、食べ物も不足していたため、野山に自生している草の実や木の実を採って食べ、ほんの少し空腹感を満たしたものです。

学校帰りに山道を通つて、スカナを取つたり、桑の実を採つて食べたり、山の中に入つて栗ひろいをした事もありました。古き

良き時代の思い出です。

豊かで美しい時代の中に、どうぶり漬かつて生活できた事は私にとつて最高の幸せで今の私を支えています。

どんな困難にぶつかつても、故郷での生活を思い出して切り抜けることができました。

ところが3・11の大震災から4年、私を育んでくれた豊かで美しい自然はどうなっているのでしょうか、農作物の放射能の影響は。情報不足ではたしかな事を考えているかもしれないのですが、外れていたらご免なさい。豊かな自然からの贈り物は利用できないのでしょうか。フキの油炒めや竹の子の煮物など、懐かしく思い出します。

風評被害も根強く残っている

ようですね。福島と言うだけで安全なものまで避けられることに憤りを感じます。これから放射能との長い戦いは続くかと思ひますが、諦めることなく、以前の様な美しく豊かな自然を取り戻すまで頑張つてほしいと思います。

何の力にもなれない自分が歯痒く思います。風評被害から早く解放される事を願っております。

鮫川村の更なる発展を心から願っております。

※別称スツカンボ



二瓶 キクエさん (旧姓高木)
(大字赤坂中野字薄ヶ久保出身)
喜多方市在住

◆プロフィール

【生年月日】 昭和10年10月生まれ

昭和26年 鮫川中学校卒業

昭和29年 福島県立東白川農商
高等学校 鮫川分校卒業
(現修明高校鮫川校)

昭和31年 郡山女子短期大学卒業

昭和31年 5月 鮫川村臨時職員

昭和31年 9月 青生野中学校教員に採用

平成 8 年 3月 39年6ヶ月の教員生活を退職する。

【家 族】 夫と2人暮らし

【趣 味】 植物観察

編集後記

日一日と日差しが柔らかくなり、村の所々でスイセンの花が多く見かけられるようになりました。早いもので私達の議員の活動も後わずかになり、時の経つ早さに驚いています。この間、多くの住民の皆様にご意見をいただいたことに、心より感謝いたします。

今後は新たな議員のもとに住民村、議会が一体となった村づくりに期待したいと思ひます。本当に議会だよりを読んでいた方が多いとご報告しました。

(編集委員)



最終の編集を終えて安堵する広報委員

「議会だより」へのご支援の御礼
一期4年間で16回の「議会だより」を発行させていただきましました。ご購入とご支援に深く感謝いたします。